

モデル経営体名：吉野 一平（滑川町）

露地野菜の産地の強化に係る展開

経営概要 2.4ha（水稻1.2ha、露地野菜1.2ha）

うち実証面積 露地野菜1.2ha ねぎ、ブロッコリー、スイートコーン、キャベツ、にんじん、その他直売野菜

導入技術

①



①直進アシスト機能付きトラクタ・クボタ・SL350(H)CQGS

②GPS車速連動肥料散布機・ジョーニシ・サンソーG-10N

③ねぎ溝切り機・旭陽工業・KTA-MS01

②



③



実証の状況

①実証の目的：

- ・直進アシスト付きトラクタとねぎ溝切機等アタッチメントの併用により、作業精度の向上と作業時間の削減を図る。
- ・GPS車速連動肥料散布機により基肥の肥料が均一に散布でき、生育の斉一性、品質・数量の向上が期待される。
- ・作業時間の削減をすることで露地野菜の規模拡大を図る。

②実証状況：

- ・ねぎ定植準備作業は、これまで基肥施肥、耕耘、溝切の3工程で実施していたが、1工程で作業が可能となり、10a当たり作業時間が、290分から109分に短縮できた。
- ・スイートコーンでは、耕耘と基肥施肥とマルチ展張が一度にでき省力化により面積を10aから40aに拡大した。
- ・作業時間の变化や経営面への効果は現在分析中。
- ・今後ねぎ定植準備の実演会を予定。

③モデル経営体の感想：

今までのトラクタ操作では、まっすぐにトラクタを進める運転作業とマルチ張りなどの後方の作業を注意して行っていたが、直進アシスト機能付きトラクタ導入後は、直進操作をアシスト機能に任せ、快適でかつ仕上がりが上手にできるようになった。



写真1 直進アシスト付きトラクタによるマルチ張り作業



写真2 作業後の圃場